

「ゲノム編集生物と社会について考える」

主催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同遺伝子組換え作物分科会
共催：日本学術振興会産学協力研究委員会 地球環境・食糧・資源のための植物バイオ第160委員会、並びに植物分子デザイン第178委員会、JST 未来共創イノベーション活動支援

開催日時：令和元年7月6日（土）：13：00～17：30

開催場所：日本学術会議講堂

（東京都港区六本木7-22-34、東京メトロ千代田線乃木坂駅徒歩すぐ）

「ゲノム編集作物育成の現状：研究開発の立場から」

江面 浩（日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系）

「ゲノム編集食品、特に、水産物生産開発の立場から」

木下政人（京都大学農学研究科）

「カルタヘナ法から考えるゲノム編集生物の取り扱いについて」

大澤 良（筑波大学生命環境系・環境省 中央環境審議会自然環境部会 遺伝子組換え生物等専門委員会委員）

「食の安全におけるゲノム編集生物の取り扱いについて」

中島春紫（明治大学農学部・厚生労働省 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会 新開発食品調査部会委員）

「ゲノム編集技術応用食品に対する消費者の視点」

松本陽子（大阪いずみ市民生活協同組合）

パネルディスカッション「ゲノム編集の社会における受け入れについて」

コーディネーター：石井哲也（日本学術会議連携会員、北海道大学安全衛生本部）

パネリスト：

「社会調査の報告」立川雅司（日本学術会議連携会員、名古屋大学環境学研究科）

上記講演者、および種瀬 亮（コープデリ生活協同組合連合会）

参加無料 なお、席数に制限（250）があり、事前登録をお願いします。

参加希望者は6月3日以降に、fsato@lif.kyoto-u.ac.jp あるいは、FAX:072-254-9163 佐藤文彦（分科会委員長）宛まで、参加者氏名並びに所属（任意）、連絡先（e-mailアドレス、または、fax番号）をご連絡ください。折り返し、登録番号をお知らせします。なお、登録された情報は、受付等の連絡にのみ、使用します。